
異世界に転生しても変わらない

gimic

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界に転生しても変わらない

【Nコード】

N0730U

【作者名】

gimic

【あらすじ】

？異世界・転生・元オタク。このキーワードを聞いたお前なら一体何を想像する？

？少しネット小説何かを読んだ頃がある人なら最強系主人公モノという言葉が頭に浮かぶかもしれない。

？なんせ俺もそう始めはそう思ったしな。

？異世界転生だ。前世の記憶を使った金儲けをしたり冒険者として一旗あげたりするのがテンプレってもんだ。そして美人の女の子たちと仲良くなっちゃってさ、気付けばハーレム何かを作ってるのが

テンプレ物の異世界転生主人公だろ。

だから転生したと気付いた時は思わず「よっしやあああああああ
って叫んじまったよ、もちろん赤ん坊だから実際は「おぎやあああ
ああああ」だったけどさ。

？あの時の俺は一体何を考えてたんだろうな、今考えれば人生そんなに簡単な分けないか、あれはあくまでお話に中だけの事であって
幾ら今いるのが異世界だとしても実際に俺はこの世界で生きてるんだから……

？

プロローグ　　人生はそんなに甘くない

？異世界・転生・元オタク。このキーワードを聞いたお前なら一体何を想像する？

？少しネット小説何かを読んだ頃がある人なら最強系主人公モノという言葉が頭に浮かぶかもしれない。

？なんせ俺もそう始めはそう思ったしな。

？異世界転生だ。前世の記憶を使った金儲けをしたり冒険者として一旗あげたりするのがテンプレってもんだ。そして美人の女の子たちと仲良くなっちゃってさ、気付けばハーレム何かを作ってるのがテンプレ物の異世界転生主人公だろ。

だから転生したと気付いた時はは思わず「よっしゃあああああああ
って叫んじまったよ、もちろん赤ん坊だから実際は「おぎやあああ
ああああ」だったけどさ。

？あの時の俺は一体何を考えてたんだろうな、今考えれば人生そんなに簡単な分けないか、あれはあくまでお話に中だけの事であって幾ら今いるのが異世界だとしても実際に俺はこの世界で生きてるんだから……

？

いくら精神が成人でも本能を抑える事は難しい

(うおっ！眩しい！)

寢覚めると俺は余りに強烈な光にさらされた。

(あーカーテン閉め忘れてたかな？そもそも俺どうやって昨日家に帰ってきたんだっけ？)

昨晩の行動を思い返してみる。昨日は週末で翌日が休みだったこともあって会社の同僚たちと上司の悪口を着にして居酒屋にくりだし飲んでたはずだがどうに記憶が曖昧である。何か大変な事が起こった気もするが思い出せない。

まあ酒を飲めばそんな事は多分にあることではあるのでそこまで気にすることでもないかと思ひ直し取り敢えず腹も空いたのでメシでも作るうと体を起こそうとした時初めて俺は自分の体の異変に気付いた。

(なんだ？起き上がれんぞ？そもそも何か俺の手ちっさくなってね？)

なんだか俺の体が小さくなっているのだ。

「(なんじゃこりやー！！？)ばぶぶぶー！ー！？」

そしてうまく喋れない事にも今気が付いた。どう聞いても今俺の発した言葉は言葉になっておらずまるで赤ん坊の泣き声の様であった。

「あらどうしたの、私の赤ちゃん？お腹が空いたのかなあ？」

俺の泣き声に釣られたのか女性が俺を抱き上げた。

あーやっぱり俺赤ん坊になってるんだ、と何処か諦めにも似たような感想を抱く俺。

だってそうでもなければ目の前にいる女性に俺が抱きかかえられる訳がない。なにせ俺の身長は180cmを超えるのだ。だから俺が小さくなっている事は確実だ。チクショーどのコン君だよ、二番煎じは流行らないだぞ。

そんな事をつらつらと考えていると自称俺の母親が胸を押し付けて来た。どうやら母乳を与えようとしているらしい。しかし今幾ら俺が赤ん坊になっているとは言え精神は立派な成人なのだ、空腹とはいえ見知らぬ女性の胸にむしゃぶりつくなんて真似できる訳がない。そういうプレイは守備範囲外なのです。

けれど俺のそんな意思とは関係なく俺の本能は空腹を満たすため母乳を吸うのであった。

うは！母乳うめえ！

赤ん坊の時の記憶が無いのは理由がある

？本能に逆らえず、心いくまで母乳を堪能した俺は何か大人として大事な物を失くした気がしたが今は赤ん坊である事を考えると別にどうでもいいような気がしないでもない。

？取り敢えず手段がどうであれ満腹になった事だし現状を整理しようと思ったのだがこれも赤ん坊であるが故か異常に眠い。余りの眠さに纏まる考えも纏まらず必死に睡魔と戦う事になった俺だったが結局は俺は夢路へと旅立ってしまった。

？（まあいいや、起きた時考えよう……）

？しばらく寝ていただろうか、俺は余りの不快感で目を覚ました。
？まあ生物として食べたならその分出ていく訳で……しかも今は身動きことれない赤ん坊である。つまり俺は漏らした気持ち悪さで目を覚ました。

（なんていう最悪の目覚め。この齡になってお漏らしなんて……）
？自己嫌悪で死にたくなつたが歯も生えていない赤ん坊では舌を噛み切る事さえできない。仕方なくオシメを替えてもらうために泣くことにする。暫く泣いていると母親が来てオシメを替えてくれた。？しかし自分で動けにことの不便さにストレスが溜まる。赤ん坊の時の記憶が無いのも当然かもしれない、こんな状態が一年以上続くとすればまともな精神をした人間なら精子に異常をきたしてもおかしくない。精神は成熟してるのにまともにも動く事さえできないなんてなんて拷問だよ。

？あれ？だつたら俺不味くないか？

希望があれば人間どうにか生きていける

（俺は今赤ん坊。俺は今赤ん坊。だから漏らしても可笑しくないし、オッパイを飲むのも普通なんだ……）

？やあ、みんな久しぶりだな俺だ。とりあえずは今自分は赤ん坊である事を受け入れる（自己暗示ともいう）ことで精神安定を計ってはいるが、絶賛黒歴史量産中である。このままいけば黒歴史の余りの多さに動けるようになった瞬間自殺するかもしれん。

？そこは置いといて、あれから新しく分かったことはここどうも地球じゃないみたいだ。

？えっ？なんでそんなことがお前にわかるのかって？だって地球なら髪の色が青やピンクなんて染めでもしないと無理でしょ？遺伝子のことなんてよく知らないけどさ天然で髪の色が青何かになる訳くらいは知っているさ。

？今俺がいる世界が所謂異世界だとわかった時は思わず「よっしゃああああああ！」って叫んじゃったよ年甲斐もなくさ。まあ実際は「あぶぶぶブー——！」って感じだったけど。あの時は母親が俺の叫び声にビックリしたのか俺を医者の方に連れていくは、そのことを知った父親が仕事ほっぽり出して診療所に来るわで大変だった。父親ちゃんと仕事しろよ。

？ああそうそう髪の色うんぬんは父親と母親のことです。父親が目も覚めるような青い髪で母親が鮮やかなピンク色の髪である。はじめ見た時はどここアニメだよと思ったもんだ。

？しかもこの世界生活レベルが中世っぽいんだ。なんというテンプレ転生。これは神様が俺にチート行えというお告げに違いないと思っただね。

？まあそうでも思わないと黒歴史量産中の今を耐えられないんだだけさ。

？夢はでっかく歴史に名を刻むような男になること！いいよね？だ

って異世界転生なんだもん。

成長しても現状に変わりなし

？やあみんな今日は朗報があるよ。なんと俺の首がすわったんだ！
？何？たかが首はすわった位のどこが朗報だって？

？甘い！甘すぎるぞ！これで寝返りも自由に打てるし周りを観察するのめずつと楽になるってもんだ。つまり今まで天井のシミを数えること位しかする事のなかった俺に新しい時間を潰す為のツールが手に入ったってことだ。

？想像してみてください、日長一日ただ単にじーっと天井を見つめていくだけの生活。いくら赤ん坊で大部分を寝て過ごしているとは言ってもそれが毎日の事になれば好い加減厭きるってもつんだろ？だから首がすわるってのは俺にとっちゃ一大イベントだったわけよ。

？で、早速周りを観察しているんだがはつきり言おう物が少なすぎる。家はどうも二間のように俺がいる寝室部分とリビングのようない部屋である。で、俺がいる寝室部分は俺のベビーベットと両親のベットが一つ、小さなダンスが一つがあるだけで他には何もなし。着ている物も着心地がいいとは言えないし、両親の服もボロっついところからあまり裕福な家庭ではないみたいだ。父親は朝早くから仕事に出てるし母親も何か内職つばいことをやってるからそう間違っていることはないだろう。

？そんな感じだから俺は素直に赤ん坊生活を満喫することもなくひたすら大人しい赤ん坊をやっている。だって俺が泣けば母親は俺にかまわないうちに行けなくなるし、そうすれば収入が少なくなる。そうなるとうちの食事も影響がでることになるし未だ栄養の摂取方法が母乳オンリーの俺にとってそんなことになったら死活問題になりかねん。結局大人しくしているのが一番だろうと判断した俺は近所で評判になる位の手のかからない赤ん坊を演じることにしたのだ。？それでも赤ん坊だからお腹が減りすぎたら泣いてしまうし、オシメが濡れても泣いてしまうのはしょうがないと諦めている。それで

も手のかからない赤ん坊であると自負しているのだけど、まあいい
齢した大人が普通の赤ん坊と同じだったらすぐにマズイだろう。
？最近はどうしたら日々増えていく黒歴史を記憶から抹消する方法
について考えてます。だれかいい方法があれば連絡ください、まっ
てます。

いきなり大きな変化なんかしない

？やあみんな最近赤ん坊身体の成長速度にビックリしている俺ですよ。なんと歯が生えたのだ！いやー寝てばかりだから産まれてどれ位時間がたったかは分からないけどさ、なにわともあれ歯が生えたことは喜ばしいことだよ。だって母乳以外の物が食べれるようになるかもしれないんだよ？

？この前も言ったけど周りを観察しようにも物が少なすぎてできないし、生活レベルに不安があるから大人しくしてないといけないし、そもそも赤ん坊の俺は動くこともできないから楽しみと言ったら食べることに位なんだよ。初めて飲んだ時はうまかった母乳も毎日飲んではいくらうまくても飽きてくる。だから違う物が食べれるというのはとても楽しみなことなのだ。

？

？しかし固形物を食べるのも久しぶりだなあとか、どんなのができるかなあとか考えたんだけどよく考えればまずは離乳食からだよね、普通さ。

？ゴメンね！全然そんなこと思いもしなかったよ！

？内心ワクワクしながら出された器のなかに入ってたお粥みたいにドロドロした離乳食を見た時の俺の気持ちは一気に海拔マイナス領域まで沈下してしまったださ。

？まあそのうちちゃんとしたご飯も出てくるようになるだろうし、俺は楽しみは後にとっておくタイプだからいいもんねとかなんとか負け惜しみっぽいことを考えつつ俺は離乳食を食べるのだった。

？あゝ米が喰いたい……

親バカも度を過ぎればただの馬鹿

？今日はいつもと違う視点からお伝えします。

？なんと俺は今立っています。40cm位しか変わらないけどかなり違うのだ。はつきり言えばちよつと怖いし……

？しかしこれは人類から見たら小さな一歩かもしてないが俺にとつては大きな一歩であることは間違いないだろう。なにせハイハイをするより行動範囲が広がるのだ。そもそも板張りの家で、しかも土足の生活だから床が汚いのなんの、その点歩ければそんなに汚れに對して気にすることもないから精神的に楽だ。

？まあまだそこ迄長い距離を歩くことはできないけど家の中で母親の目の届く範囲位でしか自由に歩けないのであまり問題ではない。

？そうそう初めて俺が立った時の母親の興奮した姿に思わず俺は引いたね。だって立った俺を見るなり涙を零しながら抱き上げるんだもん。その動作の早さと言ったらまさしく風のようにという言葉が当てはまる程だったとだけ言っておこう。それと俺も驚いたせいかわらず「ママッ！」って言うてしまった事が更に事態を悪化させた。そこっ笑うな！赤ん坊がいきなり「母ちゃん」とか変だろ！そもそも喉がそこ迄発達してないから単純な音しか出せないんだよ！

？それはさて置き、母親は嬉しさが感極まったのか俺を抱き上げたまま倒れこんだんだ。幸いにも俺と母親が怪我する様な事はなかったが、倒れた衝撃で食器類が散乱し余りにも大きな音がしたからか近所のおばさん達が家にやってきた程だった。そしてそのおばさん達も荒れた部屋と倒れた母親を見ると混乱して慌てだし騒ぎは一層大きくなったのは記憶に新しい。

？一方の俺はというと何もできないからとりあえず泣いて置いた。だって母親が覆い被さるように倒れてて重かったし……

？その夜帰ってきた父親は俺に必死に「パパ」と言わせようと頑張ってた。あまりにしつこいんで呼んでやったけど涙流しながら喜んでる姿に引いたのはここだけの話だ。

引きこもってちゃ世界は見えてこない

？最近大分大きくなったことで外に連れてってもらえる様になった俺です。

？その理由は母親が再び外に仕事に出る様になったからそれについて行ってるだけだね。

？母親の仕事は機織りらしいギツタンボタン機織り機を操り布を織っていく。家での内職も小物に刺繍をしていたからそう言った事が好きなのかもしれない。

？まあとりあえず機織りは女性の仕事らしく職場には女の人しかいない下は十代後半のような少女から上は腰の曲がったおばあちゃんまで幅広い年齢層の人がいる。いろんな年代の人が働いているから当然小さな子供を持つ人もいるんだけどここにはなんと託児場があるのだ。

？始めてここに連れてこられた時は意外に福利厚生がしっかりしていることに驚いたのだが、考えてみると一カ所に集めみんなで世話をした方が一人一人の負担が少ないのかもしれない。だって村社会だしね、ここ。

？そう、俺が暮らしているのは農業と機織りが特産の山に囲まれた小さな村である。住民の数はよく知らないけど200人位が暮らしている様だ。

？小さな村だから全員が何かの仕事をもっている。

？男たちは畑仕事や糸の材料になる動物の世話をしたり、山に入り動物を狩ったり、川から魚をとったりしているらしい。らしいと言うのも俺が直接見た訳じゃなくて父親が話しているのを聞いたからなのだが。

？女は基本的に機織りが仕事である。たまに巧く機織り機が扱えない人がでるらしく、その人は俺の様なちびっこ達のお世話をするらしい。

とりあえず村全体で一つの共同体を形成しており収穫物や織った布などは貢献度やなんやらで分配しているらしい。これも聞きかじりなのだが。

？あと特殊な職種についている人も少数だが存在する。？

？俺がこの前連れていかれた医者を生業にする人や、収穫した農作物や布をどこかで交換してくる交易に携わる人、あとはお祭りや誰かが結婚したり死んだ時などの神事や祭事などに携わる人など、絶対数は少ないが彼らも村の生活を支える大切な人材だ。

？そんな村の事情も最近ではちらほらと分かつてはきてるのだが、とりあえず今の俺は子供達の鳴き声にさらされている。

？きっかけが何だったかは判らないが一人が泣き出しそれが伝染するように全体に拡がってしまったのが今の現状だ。しかしなんで子供って一人泣き出すと全員が泣くのだから？何かの共鳴作用でも子供の鳴き声にはあるのだろうか？あゝあ、世話係りの人も困って立ち竦んでるしさ。確かあの人達、この前来たばかりの新人さん達だったっけ？しかもなぜか今日に限ってベテラン勢が揃って休みという事態。確かに経験ないとこの状況はどうしたらいいか判らんよな俺も判らんけど。

？オロオロしつつ放しの新人世話係を尻目に俺は離れたところでその成り行きを眺めている。だって1歳位の子供にできる事なんてないし、まだ巧くしゃべれないし、あの人達もこれが仕事なんだからその仕事をとつちや悪いし、とか色々言い訳を考えるのだが結局はメンドクサイというのが理由だったりするのだ。

？まあ新人さん達よこれも一つしれんだと思って頑張ってくれ。俺は積み木で遊んでるからさ。

？しかし最近本当に行動が子供っぽくなったよな俺……

異世界だろうと現実はこんなもん（前書き）

今更前書きをば、スマホで書いているので直打ちが面倒で何も書いてなかったです。

今回で一応主人公の今後の行動の制限と道標を示したつもりです。
ではどうぞー

異世界だろうと現実はこんなもん

？今日も今日とて積み木で遊ぶ、どうも俺です。いや、奥が深いね積み木って想像力次第でいろんな形のモンが作れちゃうんだからな。

？今の俺は積み木のスペシャリストだ、妄想力で俺に勝てるやつはいないね。しかも弟子も持つてるだ、俺。タンリとトナリっていう名前の双子の姉弟なんだけど俺が作った積み木作品が気に入ったのか同じ物を作りたいらしく頑張ってる。俺は手取り足取り教えてやるような優しい師匠じゃないから何も言わない。技術は盗むモノだと言外の動作で伝えるだけだ。

？ごめん、嘘です。本当は教えようとしても余りに子供すぎて意思の伝達がうまくいかないのです。

？まあ2歳児と完璧な意思疎通などはつきり言って無理だからね。そんな事ができたら日頃世話係のみんながあんなに忙しそうに動き回る訳がないのだ。

？俺だって初めはどうか教えようと頑張ったけど、少しでも気に食わない事があると泣き叫び

、手に持った積み木を投げってくる双子に匙を投げてしまっても俺は悪くないだろう。

？あれは無理だ、せめて話を通じるようになるまで接触は控えないとこつちが保たん。子供のすごいところって対局の限界まで全力で遊べる処だとかつくづく感じるよ。俺も今は幼児だけどそこ迄目一杯に遊び倒す事はできないもんね、俺が純粹な幼児じゃないからだろうけど。

？だからどうしても周りの子供には押し負ける。だから俺の周り（世話係達）からの評価は大人しくて手が掛からない子供という評価

が継続してあたえられている。多少大人し過ぎて心配されている節があるが、赤ん坊の頃から大人しくしていたからかそういう子供なのだろう思われてる様だ。

？幼児に対する感想と俺の周りの評価は放っておいて、最近わかった事だがこの世界にはモンスターはいないらしい。だからそれを狩る冒険者もいなければそいつ等に仕事を斡旋するギルドもない。これで俺が冒険者になって成り上がるという道は閉されたといっている。

？もちろん突然モンスターが現れ冒険者という職業やギルドが誕生するという可能性もゼロじゃない。けどそんな僅かな可能性にかけて長年体を鍛え戦闘技術を蓄えていくような事はしたくない、というより出来ない？

？なぜなら今いる場所が村というこの中で完結してしまっている社会だからだ。子供の頃ならまだしも大人になってまで周りと違う奇怪な行動を取り続ければ村八分にされる事は目に見えてる。俺だけならまだしも両親までそうなった時その先に待ってるのは確実な死だ。

？人間が一人で生きていける程現実には優しくないのは前の世界でもこの世界で同じ事のようにだ。

？だったら知識を生かしてなり上がればいいと思うかもしれないが、そもそも俺に役に立つような専門知識はない。さらに言えば使えそうな知識にした処で概要を知っているだけではどうしようもないというのが厳しい現実だったりするのだ。簡単なモノならどうにかなるかもしれないが、それがもうこの世界に存在する可能性も否定出来ない。

？それにこの世界では金という概念がないらしい。いや、あるのかもしれないが基本物々交換が主流のようではあまり意味がない。貨幣はお互いにその価値を認めてはじめて使えるモノだから、その認識が育っていないと商売するにも面倒なのだ。

?ちくしょう、やっぱり真面目に生きるのが1番ってか……夢も希望もありやしない。

?そんな現実には打ちのめされた3歳の俺だった。

異世界だろうと現実はこんなもん（後書き）

誤字・感想等あればお願いします

楽をしたいと思うのはどこに行っても変わらない（前書き）

これだけ書くのに時間かかり過ぎる……

楽をしたいと思うのはどこに行っても変わらない

？異世界に生まれ変わったものの現実の厳しさはこちらの世界でも変わらないようで現実の世知辛さに涙したのは今では懐かしい思い出なのだが、それでも今まで考えていた人生計画が全く意味のない妄想の産物だったことは俺にとって最大級の黒歴史となった。けれど赤ん坊の頃から黒歴史を生産し続けてきた俺にとって、いくら規模が大きかろうが今更一つや二つ増えたところでもう今更だ。

？さておとぎ話として語られる様な冒険をするという計画は早くも頓挫した為、今後のことを一から考え直す必要がある。

？とりあえずこの村から出て行くと言うのは無しだ。村の外に出ていく様な人は交易に携わる人間じゃない。つまり外の世界で生きていこうと考える人間がいないのだ。

？これも村の外の情報が滅多に入ってこないからだろう。情報源が交易にいく人間しかないし、そこからの情報でさえ大した事は聞けないのだから村の外はほぼ未知の世界と言ってもいい。

？情報は生きていく上で重要な要因の一つだ。それが慢性的に欠けている状態で外の世界に旅立つのは自殺行為だろう。

？だとしたら村で生きていくしかないのだが、いくら小さな村だといつてもやらなければならない仕事は多いから仕事もある程度細分化されている。もちろんどれかを選んだとしてもその仕事だけをしていれば良いわけではないが、それでも各人の役割というものは選んだ仕事を全うすることが基本となる。

？村の中でどの仕事が偉いなどという風潮はないが、それでも尊敬を集める仕事は存在する。

？それは薬師であつたり、神職であつたり、色々ではあるが全てに当てはまるのはどれも専門的な知識や経験が必要であることだ。そしてそういった仕事に就いている人間は村全体から大事に扱われる。つまり俺がそういった仕事に就く事ができればかなり楽ができるの

だ。

？とりあえず、これからの目標は楽な仕事に就く努力をする事、である。

？そんな方針を固めた4歳の冬だった。

体力は生活の基本である

？さて、冬の寒さに凍えている合間に今後の方針を決めた俺だったのだが、別段今できる様な事はないのだ。いくら俺の精神が大人であるといっても世間ではまだ幼い5歳児でしかない。そんな俺に専門的な事を教えてくれる様な酔狂な大人はいないのだから仕方が無いだが……

？早速出鼻を挫かれた感が否めない俺だがそれなら今何をしているのかと言うと家の簡単な手伝いなんかをしている。主に単純労働で家で使う薪運びであつたり、水汲みだったりするのだが何もしていないよりはマシだし、何よりある程度親の目を気にすることなく外に出る事ができるのが素晴らしい。

？どうもうちの母親は過保護なタイプらしく、俺が目に見える範囲からいなくなると大慌てする程で、機を織っている時も俺が気になるらしくよく注意を受ける姿を見ていたからしばらく自由に動く事はできないんじゃないかと思っていたが、最近多少ではあるけどその過保護ぶりが緩和されたらしい。

？俺の仕事の話に戻そう。まずこの村にはガスや電気などない為料理を作ったり、暖を取る為には当然火を起こす必要がある。その為薪が絶対に必要となるのだが、各家庭がそれぞれ森入り薪を集めるとなると効率が悪く回数も増える事からこと村では集めた薪を複数場所ですとめて保管しそこから各家庭が持つていくという仕組みになっている。俺はそこから薪を家まで持つていくのが仕事であるし、同じ様に山から引いて溜めてある水瓶から水を桶に入れて持つていくのも俺の仕事である。

？しかしこの仕事であるが5歳児の俺にとって途轍もない重労働である。なにしろまだ体が小さく筋肉も余りないから運べる量が少ない。だから必要量を運日終えるには平気で2、3時間かかるのだ。始めてやった時なんて昼から何もできなかった位である。

？前世なら児童虐待だと児童擁護団体とかが騒ぎ立てる処だが、あいにくこの世界にそんなものは存在しないし、小さな子供の仕事と言えどこれが当たり前だから誰も可哀想などとは思わない、それが当たり前だからだ。

？もしかすると小さい頃から重労働をさせるのは早いうちから体を鍛え、体力を付けさせることが目的なのかもしれない。生きていくには体力がいる、それは前世の時より切実な問題である。機会などないこの世界では全ての事を自分でしなければいけないのだから体力は当然必要だし、もし病気になってしまったら頼れるのは自分の体だけなのだ。いくら薬師がいるといっても彼らの作る薬が万能である筈もなく、最終的に体力勝負な面は否めない。だからこそ小さなうちから体力を付けさせようとしてもおかしくない。なにしろ子供は何かにつけて熱を出す。そして体力無い子供は死んでしまう可能性が高いのだ。

？だから体力を付けさせ少しでも子供が死なない様にする。

？可愛いから、死んで欲しくないからこそ厳しい行動をとるのだ。

これを愛情と言わずなんというのだろうか。

？

？そんな事を考えながら今日も愛ゆえの筋肉痛を感じる5歳の春の事だった。

体力は生活の基本である（後書き）

誤字や感想等ありましたら気軽にお願いします

結局他人との競争は子供の頃から始まっている

？最近体力が付いてきたのか筋肉痛になる回数が大分減った。それに伴い少しではあるが筋肉もついてきた今日この頃である。

筋肉がついた事で一度に運べる量も増えてきたので手伝いにかかる時間も短縮されているが最近少し心配な事がある。

？小さい頃から筋肉を付けすぎると身長が伸びないとよく言われている。そして俺は今5歳である。

？このまま筋肉を付けて行つて身体の成長が止まらないか心配なのだ。

？そもそもこの村の大人の男達の身長は大体160cm程である。

？もちろん全員が全員160cmという訳ではないし、背の高い人もいるし、さらに低い人もいる。そして不幸な事に俺の親父は低い方に分類される人間で、その遺伝子を受け継いだ俺も身長が低くなる可能性は多いにあるという事だ。

？それなら筋肉を付けるのをやめればいいと思うかもしれないが、そうできない理由がある。

？男にとって体力があるというのはそれだけで有能かどうかを判断するバロメーターなのだ。

なぜなら生活に必要な物は大部分が村全体で管理されており、各自の働きに応じて分配される事になる。

？つまり働き者程多くの財産を得る事ができる、つまり生活が楽になるのだ。

？一方、体力の少なく多く働けない者は財産を貯めることが難しく生活に余り余裕はない。だからそんな処に嫁に来るような女性は少なく、一人物として生涯を終える者も多くはないがいるのだ。

？それでも体力が少ない者が財産を貯めようとするならば希少で体力が余り必要でない仕事に就かなければならない。

？つまりそんな仕事に就こうと考える俺にとってそんな奴らはライ

バルであり、競争して勝ち抜かなければならない相手なのだ。

？しかし必ず勝ち残ると言えない以上は保険として体力を付けておかなければならない。それに希少な仕事でも体力が必要な仕事は結構な数があるから選択肢を増やす意味でも体力を付けた方がいいというのが理由である。

？結局どこに行っても小さい頃からの積み重ねが将来勝ち組になれるかどうかの重要な要因になることは変わらないらしい。

？つくづく現実的な異世界である事感じる5歳の春だった。

結局他人との競争は子供の頃から始まっている（後書き）

誤字や感想等ありましたら気軽にお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0730u/>

異世界に転生しても変わらない

2011年6月28日12時49分発行